

会 津 開 発 地 域

---

土地分類基本調査

---

喜 多 方

5万分の1

国 土 調 査

福 島 県

1 9 7 6

## 序 文

全国総合開発計画においては、人間と自然の調和をはかりながら、国土を有効に活用し、開発可能地域を全国に拡大し、地域の特性に応じた開発を推進するとともに、国民生活の社会環境を整備保全するなど基本的目標がうたわれています。

本県としては、このような観点に立脚し、会津地域に大規模林業圏開発計画を策定し、破壊されずに残っている自然と調和を保ちつつ、大規模林道、緑化木生産団地の建設、森林レクリエーション基地の整備等あらゆる角度から総合的に調査し、地域の特性を生かした開発を意欲的に進めることになりました。

したがって、このプロジェクト単位に土地利用計画を策定するため、地形、地質、土壌、気象等の自然条件、災害および土地保全、土地の所有形態及び開発を規制する因子等について総合的・科学的に調査をなし、その成果を有機的に組み合わせて参りたいと考え、土地分類基本調査を実施しております。

また、この調査は国土調査法第5条第4項による国土調査として指定をうけ、国土調査事業補助金によって福島県が事業主体となって実施するものであります。

なお、この成果が一般的行政上に利用されることは勿論、各種開発の基礎資料として広く活用されることを希望するとともに資料の収集、調査等にご協力をいただきました福島大学はじめ各関係者に対し深く謝意を表する次第であります。

福島県農地林務部長

村 田 定 彦

## 調 査 担 当 者 一 覧 表

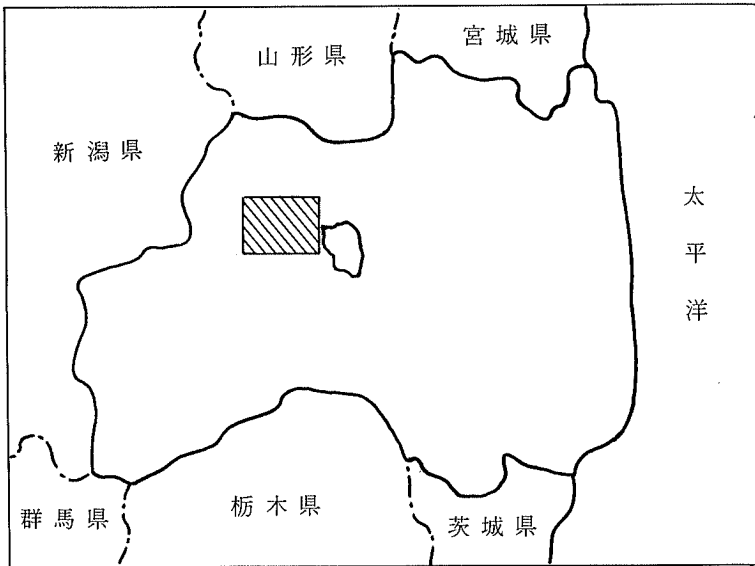
地形分類調査	福島大学教育学部助教授 福島県西会津町立奥川小学校教諭	中 村 嘉 男 田 崎 敬 修
表層地質調査	福島大学教育学部教授 福島県立安達高等学校教諭 福島大学教育学部助手	鈴木 敬 治 吉 田 義 真 鍋 健 一
土 壌 調 査	福島県農業試験場専門研究員 研究員 福島県林業試験場専門研究員 研究員	鈴木 平 喜 菅 野 忠 教 添 田 幹 男 今 井 辰 雄
開発関連調査		
傾斜区分調査		
水系・谷密度調査	福島大学教育学部助教授	中 村 嘉 男
土地利用現況調査	福島県農地林務部 農地管理課主査	渡 辺 三 郎
土壌生産力区分調査	福島県農業試験場 専門研究員	鈴木 平 喜
	福島県林業試験場 専門研究員	添 田 幹 男

# 目 次

總 論 .....	1
各 論	
I 地形分類図 .....	25
II 表層地質図 .....	30
III 土 壤 図 .....	35
IV 傾斜区分図 .....	41
V 水系・谷密度図 .....	44
VI 土壤生産力区分図 .....	47
VII 土地利用現況図 .....	49



位 置 図



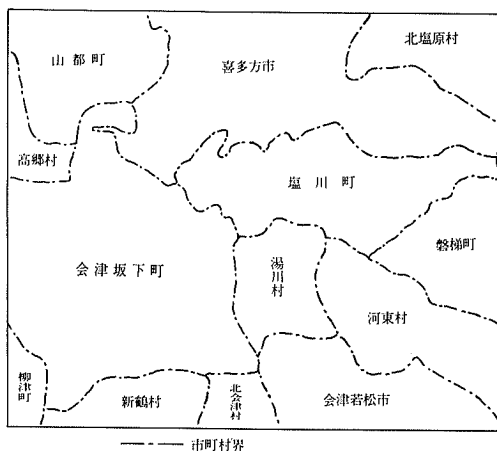
# 總論

## 1 位置・行政区画

「喜多方」図葉は猪苗代湖の北西に位置し、経緯度は東経139°45′～140°0′、北緯37°30′～37°40′の範囲にある。本図葉内の行政区画（第1図）は、会津若松市・喜多方市・北会津郡北会津村・耶麻郡北塩原村・塩川町・山都町・磐梯町・高郷村・河沼郡会津坂下町・湯川村・柳津町・河東村・大沼郡新鶴村の2市5町6村からなっており、本図葉内にしめる面積及び市町村合併状況（第2図）は次のとおりである。

市町村名	面積 km <sup>2</sup>	図葉内に占める面積 km <sup>2</sup>	占有率	市町村名	面積 km <sup>2</sup>	図葉内に占める面積 km <sup>2</sup>	占有率
会津若松市	286.26	約36.45	12.7	新鶴村	40.41	18.76	46.4
喜多方市	150.30	71.75	4.8	磐梯町	59.47	25.21	42.3
北会津村	28.15	9.89	35.1	北塩原村	234.89	21.89	9.3
河東村	39.06	34.41	88.0	山都町	155.95	28.15	18.1
柳津町	176.99	6.28	3.6	高郷村	46.40	8.94	19.3
会津坂下町	91.32	83.67	91.6	塩川町	44.79	44.79	100.0
湯川村	16.81	16.81	100.0	計	1,370.80	407.00	29.7

第1図 行政区画



## ○喜多方市

昭和29年3月31日 耶麻郡喜多方町、岩月村、松山村、慶徳村、豊川村、関柴村、熊倉村及び三宮村合併、喜多方市を新設。(新設合併)

昭和33年1月1日 一部を耶麻郡塩川町に編入、塩川町の一部を編入(境界変更)

昭和34年8月1日

昭和34年1月1日 一部を耶麻郡熱塩加納村に編入、熱塩加納村の一部を編入(境界変更)

## ○会津若松市

明治32年4月1日 北会津郡若松町を若松市とする。(市制施行)

昭和8年1月17日 北会津郡門田村との間に境界変更

昭和12年4月1日 北会津郡町北村の一部を編入(境界変更)

昭和26年4月1日 北会津郡町北村を編入(編入合併)

昭和27年1月1日 北会津郡門田村の一部を編入(境界変更)

昭和30年1月1日 若松市を会津若松市とする。(名称変更)

昭和30年1月1日 北会津村、湊村、一箕村、高野村、神指村、門田村、大戸村及び東山村を編入(編入合併)

昭和30年4月1日 大沼郡本郷町の一部を編入。(境界変更)

昭和34年1月1日 一部を河沼郡湯川村に編入、湯川村の一部を編入(境界変更)

昭和35年4月1日

## ○北会津村

昭和31年5月1日 北会津郡荒館村及び川南村合併、北会津村を新設(新設合併)

昭和31年11月1日 一部を大沼郡本郷町に編入(境界変更)

昭和41年11月1日 一部を大沼郡会津高田町に編入、会津高田町の一部を編



## 入（境界変更）

## ○北塩原村

昭和29年3月31日 耶麻郡北山村，大塩村及び檜原村合併，北塩原村を新設（新設合併）

## ○塩川町

昭和29年7月1日 耶麻郡塩川町，堂島村，姥堂村及び駒形村合併，塩川町を新設（新設合併）

昭和32年3月31日 一部を河沼郡笈川村に編入，笈川村の一部を編入（境界変更）

昭和33年1月1日 一部を喜多方市に編入，喜多方市の一部を編入（境界変更）

昭和34年8月1日

## ○山都町

昭和29年3月31日 耶麻郡山都町，相川村，早稲谷村，一ノ木村及び朝倉村の一部合併，山都町を新設（新設合併）

昭和30年3月1日 河沼郡千咲村の一部を編入（境界変更）

## ○高郷村

昭和30年3月31日 耶麻郡山郷村，河沼郡高寺村，新郷村及び千咲村合併，高郷村を新設（新設合併）

昭和30年3月31日 高郷村の属すべき郡を河沼郡と定める。（所属郡の決定）

昭和35年8月1日 河沼郡会津坂下町の一部を編入（境界変更）

昭和35年8月1日 耶麻郡に編入（郡界変更）

昭和35年10月20日 一部を耶麻郡西会津町に編入（境界変更）

## ○磐梯町

昭和35年4月1日 磐梯村を磐梯町とする（町制施行）

## ○会津坂下町

昭和30年4月1日 河沼郡坂下町，八幡村，金上村，若宮村，広瀬村及び川



## ○新 鶴 村

明治31年 1月23日 大沼郡新田村及び鶴ノ辺村合併，新鶴村を新設（新設合併）

昭和24年 1月 1日 大沼郡西山村の一部を編入（境界変更）

昭和35年11月 1日 一部を大沼郡会津高田町に編入，会津高田町の一部を編入（境界変更）

## 2 人 口 動 態

本図葉内の関係市町村の世帯数及び現住人口（昭和46年対比昭和49年）の推移をみると第1表のとおりである。会津若松市が27,715戸に対し1,024戸（4%），河東村が2,078戸に対し74戸（3.4%）及び喜多方市，北塩原村，塩川町，会津坂下町において若干増加し，また，磐梯町が1,235戸に対し55戸（4.4%）及び北会津村，山都町，高郷村，湯川村，柳津町，新鶴村では，それぞれ若干の減少をなしている。特に著しいのは旧豊川村の世帯数772戸に対し68戸（8%）の増加である。また，現住人口は会津若松市を除き12市町村とも減少しているが，特に高郷村では3,651人に対し272人（7.4%），山都町が6,228人に対し405人（6.5%）の減少をしめしている。以上のとおり，世帯数の増加と人口の減少は，いわゆる核家族化と県外就職及び地方都市への集中化等によるものと推察される。

第1表 世帯数及び現住人口

市町村 (旧市町村)	昭和46年(10月1日)				昭和49年(10月1日)				世帯数 増減	人口 増減
	世帯 数	人 口			世帯 数	人 口				
		合計	男	女		合計	男	女		
会津若松市	27,715	104,009	48,660	55,349	28,739	105,751	49,550	56,201	1,024	1,742
喜多方市	9,491	37,962	18,020	19,942	9,607	36,968	17,636	19,332	116	△994
(喜多方町)	4,932	17,175	8,072	9,103	4,858	16,252	7,676	8,576	△74	△923
(岩月村)	650	3,100	1,498	1,602	673	3,061	1,485	1,576	23	△39
(松山村)	1,211	4,814	2,340	2,474	1,270	5,055	2,467	2,588	59	241
(慶徳村)	428	2,102	983	1,119	427	1,969	915	1,054	△1	△133

市町村 (旧市町村)	昭和46年(10月1日)				昭和49年(10月1日)				世帯数 増減	人口 増減
	世帯 数	人 口			世帯 数	人 口				
		合計	男	女		合計	男	女		
(豊川村)	772	3,339	1,589	1,750	840	3,513	1,675	1,838	68	174
(関柴村)	506	2,597	1,248	1,349	547	2,620	1,238	1,382	41	23
(熊倉村)	629	3,013	1,412	1,601	629	2,798	1,344	1,454	0	△215
(上三宮村)	363	1,822	878	944	363	1,700	836	864	0	△122
北会津村	1,394	7,037	3,339	3,698	1,389	6,780	3,238	3,542	△5	△257
(荒館村)	802	4,113	1,961	2,152	791	3,945	1,881	2,064	△11	△168
北塩原村	896	4,233	2,077	2,156	922	4,001	1,969	2,032	26	△232
(北山村)	264	1,305	612	693	264	1,228	595	633	0	△77
(大塩村)	238	1,233	602	631	236	1,122	545	577	△2	△111
塩川町	2,259	10,369	5,016	5,353	2,272	10,017	4,870	5,147	13	△352
山都町	1,434	6,228	2,990	3,238	1,427	5,823	2,763	3,060	△7	△405
(山都村)	412	1,696	822	874	425	1,587	760	827	13	△109
(相川村)	127	554	254	300	128	519	236	283	1	△35
(千咲村2-1)	126	593	288	305	124	555	267	288	△2	△38
磐梯町	1,235	5,217	2,474	2,743	1,180	4,906	2,363	2,543	△55	△311
高郷村	746	3,651	1,779	1,872	733	3,379	1,661	1,718	△13	△272
(山郷村)	355	1,667	807	860	345	1,535	743	792	△10	△132
(新郷村)	309	1,568	759	809	308	1,463	723	740	△1	△105
(千咲村2-2)	82	416	213	203	80	381	195	186	△2	△35
会津坂下町	4,823	21,384	10,121	11,263	4,854	20,680	9,823	10,857	31	△704
(坂下町)	1,974	7,378	3,448	3,930	2,011	7,308	3,425	3,883	37	△70
(若宮村)	677	3,331	1,595	1,736	680	3,211	1,556	1,655	3	△120
(金上村)	468	2,362	1,132	1,230	467	2,229	1,058	1,171	△1	△133
(広瀬村)	618	3,120	1,452	1,668	613	3,031	1,416	1,615	△5	△89
(川西村)	350	1,705	821	884	350	1,616	782	834	0	△89
(八幡村)	468	2,096	1,009	1,087	468	1,976	942	1,034	0	△120
(高寺村)	268	1,392	664	728	265	1,306	644	665	△3	△83
湯川村	831	4,118	1,950	2,168	827	3,952	1,875	2,007	△4	△166
(笈川村)	457	2,265	1,073	1,192	455	2,174	1,031	1,143	△2	△91
(勝常村)	374	1,853	877	976	372	1,778	844	934	△2	△75
柳津町	1,499	6,839	3,275	3,564	1,481	6,471	3,134	3,337	△18	△368
(柳津町)	971	4,389	2,064	2,325	967	4,183	1,977	2,206	△4	△206
河東村	2,078	9,620	4,701	4,719	2,152	9,433	4,581	4,852	74	△187
(日橋村)	1,282	5,891	2,878	3,013	1,346	5,806	2,820	2,986	64	△85
(堂島村)	796	3,729	1,823	1,906	806	3,627	1,761	1,866	10	△102
新鶴村	997	5,012	2,404	2,608	988	4,693	2,250	2,443	△9	△319

次に昭和45年の産業別就業者数（第2表）をみると、昭和40年に対し、第1次産業が、13市町村とも減少し、特に磐梯町では1,328人に対し263人（19.8%）の減少となっている。また、第2次産業では反対に13市町村とも増加をなし、特に柳津町では367人に対し221人（37.6%）の増加となっている。第3次産業では、高郷村を除いて12市町村が増加し、特に北会津村が569人に対し221人（28%）の増となっている。この地域は穀倉地帯ではあるが年々第1次産業の就業者数が減少の傾向をしめしている。また、産業部門ごとに就業者数をみると、第1次産業では農業が45,238人に対し4,452人（9.8%）の減少、第2次産業では製造業が21,401人に対し5,291人（10.4%）及び第3次産業では卸、小売業が17,816人に対し2,213人（11.1%）の増加となっている。このように産業構造が第1次産業から第2次、第3次産業へと就業者が移行しているのは、他地域にもみられる現象である。

（福島県農地林務部農地管理課主査 渡辺三郎）

### 3 地域の特性

#### 自然的条件

##### (1) 地形

本図葉は、南北にやや細長くのびる会津盆地を中央に、東側には猫魔、雄国火山および背中灸山地の北への延長部とからなる奥羽脊稜山地の一部、西側には只見川流域の段丘地形を含む丘陵性山地をそれぞれ収めている。このような大まかな地形配置は本図葉地域を排水する河川の水系にも反映されていて、地形区設定を容易にしている。

地形区分としては、3つの地形地域（大区分）と19の地形区に分けられる。すなわち、A 東部山地、B 中央低地、C 西部山地である。それらの地形地域内には、東部山地の雄国火山地を除いてすべて中～小起伏山地ないし丘陵地がひろがり、それらを開析する大小の河谷に沿って砂礫台地が、また、山頂、山腹

第2表 産業別就業者数 (15才以上)

市町村	昭和40年			昭和45年			増減数			増減率(%)			分不能産業 割合							
	計	第一次	第二次	計	第一次	第二次	計	第一次	第二次	計	第一次	第二次		第三次						
	分不能産業 割合			分不能産業 割合																
会津若松市	47,099	8,654	13,000	25,418	27	52,769	7,693	16,165	28,873	38	5,670	△961	3,165	3,455	11	10.7	△11.1	19.6	12.0	28.9
喜多方市	19,461	7,911	4,614	6,926	10	20,002	6,845	5,802	7,343	12	541	△1,066	1,188	417	2	2.7	△13.5	20.5	5.8	16.7
北会津村	4,073	3,108	395	569	1	4,191	2,918	481	790	2	118	△190	86	221	1	2.9	△6.1	17.9	28.0	50.0
北塩原村	2,566	1,710	175	681	0	2,423	1,483	247	693	-	△143	△227	72	12	0	△5.6	△13.3	29.1	1.7	0
塩川町	5,746	3,736	738	1,271	1	5,878	3,364	1,081	1,430	3	132	△372	343	159	2	2.2	△10.0	31.7	11.1	66.7
山都町	3,554	2,578	307	668	1	3,465	2,400	353	710	2	△89	△178	46	42	1	△2.5	△6.9	13.0	5.9	50.0
磐梯町	2,933	1,328	918	686	1	2,685	1,065	921	692	7	△248	△933	3	6	6	△8.5	△19.8	0.3	0.9	85.7
高郷村	1,966	1,378	233	355	0	1,875	1,235	314	326	-	△91	△143	81	△29	0	△4.6	△10.4	25.8	△8.2	0
会津坂下町	11,652	6,702	1,495	3,450	5	11,796	6,082	1,902	3,810	2	144	△620	407	360	△3	1.2	△9.3	21.4	9.4	△60.0
湯川村	2,453	1,850	212	390	1	2,472	1,711	288	473	-	19	△139	76	83	△1	0.8	△7.5	26.4	17.5	△100.0
柳津町	3,647	2,426	367	852	2	3,654	2,185	588	879	2	7	△241	221	27	0	0.2	△9.9	37.6	3.1	0
河東村	4,836	2,769	946	1,117	4	5,059	2,416	1,384	1,255	4	223	△353	438	138	0	4.4	△12.7	31.6	11.0	0
新鶴村	2,874	2,168	278	428	0	2,872	2,033	324	514	1	△2	△135	46	86	1	△0.1	△6.2	14.2	16.7	100.0

国勢調査統計資料

には侵蝕面からなる小規模な岩石台地が分布する。面積的に最も広い中央低地には、大川、日橋川、大塩川等のつくりだした新旧3面の扇状地が展開し会津盆地の盆地床を形成する。

(福島大学教育学部助教授 中村嘉男)

## (2) 表層地質

会津盆地は、南北方向に長い地溝状の形を示す構造盆地である。盆地の東西両側の山地との境界には、断層や撓曲の構造が発達し、盆地部が相対的に落ちこんでいる状態を示すところが多い。本図葉では、これらの構造は一部の区域で発達するのみで、大部分は山地に分布する半固結～固結の堆積物や火山性の堆積物が盆地側にかたむき、盆地面下にもぐりこむ盆地構造を示している。盆地面下には、盆地を埋積する未固結の完新—更新世の堆積物がかなりの厚さに分布し、日橋川と大川の合流点付近では、海拔0 m内外に基底面があると推定される。これは、会津盆地が堆積盆地でもあることを示している。

盆地床下の未固結堆積物の下位には、東西両側の山地からもぐりこんできている半固結の更新世前期の堆積物および火山性の堆積物が発達している。この基底面は盆地西部では－350 mの深度にあると推定される。

盆地の西側の山地には、上にのべた半固結の堆積物とより下位の固結堆積物とが、NNE～SSW方向にのびる断層・褶曲構造をつくって分布する。

盆地の東側の山地には、半固結～固結の火山性堆積物と固結堆積物とが、波曲状の構造をつくって分布する。猫魔火山では、以上にのべた堆積物を不整合におおって、各種の火山堆積物が発達している。火山体は揚げ底の構造を示し、火砕流の一部や泥流性の堆積物は、盆地内に入りこみ、盆地埋積堆積物と指交している。

阿賀川、只見川、日橋川などの河谷には、未固結のはらん原堆積物や段丘堆積物などが分布する。只見川や阿賀川ぞいには、沼沢火山に由来する未固結の沼沢浮石層が分布する。

(福島大学教育学部教授 鈴木敬治)

### (3) 気 候

本図葉地域の気候的特性は基本的には会津盆地全域に該当するものであるが、いわゆる裏日本型に属すると同時に、内陸盆地特有の気候特性をも有している。裏日本型気候の特徴の一つは、年間の降水量分布に2つの極大が現われることであるが、喜多方気象観測所のデータ（第3表）をみても、7月（198mm）と12月（157mm）にそれぞれ極大がある。もちろん、冬季のそれは降雪によるものである。

盆地気候の特徴としては、日最高気温、最低気温の差（気温の日較差）が比較的大きいことのほかに、霧の発生日数が多いことが挙げられよう。会津盆地では年間平均51.9日を数え、とくに10月、11月に集中する。発生原因は、気温の逆転に伴う放射霧の滞留が主なものである。また、大川、只見川沿いには、水面から発生する「蒸気霧」も少なくない。なお、豪雪地帯で知られる会津地方にあってこの盆地部は、例外的に積雪も比較的少ない。

（福島大学教育学部助教授 中村嘉男）

## 4 主要産業の概要

### (1) 農 業

本図葉内の関係市町村の専業、兼業農家数及び世帯数（昭和40年対比昭和45年）は第4表のとおりである。農家数では、山都町相川、塩川町堂島、会津坂下町若宮を除いてそれぞれ若干の減少をなし、減少率で大きいのは旧喜多方町の211戸に対し39戸（18.5%）である。

また、専業農家数は旧若松市、喜多方市慶徳、塩川町堂島、旧山都町、会津坂下町金上を除いてそれぞれ減少し、特に北塩原村大塩の場合は、24戸に対し20戸（81.5%）も減少している。

第1種兼業では、旧若松市ほか11旧町村を除いてそれぞれ増加し、特に高郷村千咲は28戸に対し25戸（89.2%）の増加。また、旧若松市は29戸に対し11戸（37.9%）の減となっている。第2種兼業では、旧若松市外12旧町村を除いて



第3表 気 候 表

喜多方氣象観測所 (喜多方市水上6742 県立喜多方高校 緯度37°39.2' 経度139°52.7' 海拔212 m)

項目	月												統計期間	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		年
平 均	-1.1	-0.6	3.0	10.0	15.6	19.9	24.1	25.4	20.6	13.8	7.5	2.1	11.7	1941~1970
最 高 平 均	3.0	3.9	7.7	16.3	22.4	25.6	29.3	31.2	25.9	19.1	12.4	5.6	16.9	〃
最 低 平 均	-5.2	-5.1	-1.8	3.7	8.7	14.2	18.9	19.6	15.2	8.4	2.5	-1.4	6.5	〃
最 高 極	13.5	18.5	28.0	32.5	32.8	37.0	37.7	38.0	37.5	31.6	25.0	21.5	38.0	1911~1970
起 年 日	昭8・7	大11・24	昭10・19	昭17・27	昭3・31	大11・15	大7・27	大7・12	昭3・1	昭19・8	昭15・7	昭4・17	大7・8・12	〃
最 低 極	-18.7	-24.0	-18.0	-9.7	-5.0	1.3	5.0	7.6	3.7	-4.5	-11.8	-16.2	-24.0	〃
起 年 日	昭11・25	昭17・11	大11・3	昭4・1	昭4・2	昭6・5	大15・6	昭5・21	大14・24	昭18・20	昭1・28	昭17・2・11	昭7・2・11	〃
日 最 高 $\geq 25^{\circ}$	0	0	0	3	10	18	26	30	17	1	0	0	105	〃
日 最 低 $< 0^{\circ}$	30	27	24	5	0	0	0	0	0	0	6	22	114	〃
合 計	151	95	92	84	82	128	198	123	131	103	96	157	1,440	1941~1970
日 量 最 大	64	41	56	47	74	101	144	180	88	110	62	51	180	1908~1970
降 起 年 日	昭43・17	昭40・24	昭38・24	昭2・5	昭9・12	昭22・28	大15・29	大1・1	昭23・16	昭42・4	昭44・5	昭31・9	昭33・20	大1・8・1
水 日 $\geq 1$	23	18	16	11	11	14	13	11	12	12	15	20	176	1961~1970
日 $\geq 10$	6	3	3	3	3	5	6	4	4	4	4	5	50	〃
量 数 $\geq 30$	1	0	0	0	0	1	2	1	1	1	0	1	8	〃
平 均 風 速 %s	1.6	2.0	2.1	2.1	2.0	1.7	1.1	1.3	1.2	1.0	1.6	1.7	1.6	〃
最 深 積 雪 平 均	64	59	31	2	-	-	-	-	-	-	4	35	74	1941~1970
最 深 積 雪 極	160	150	130	21	-	-	-	-	-	-	33	152	160	1911~1970
cm 起 年 日	昭11・30	昭20・24	昭11・12	大12・5	-	-	-	-	-	-	昭8・23	昭19・30	昭11・30	〃
雪 日 数	29	27	20	2	-	-	-	-	-	-	3	18	99	1961~1970
日 照 時 間	127	177	205	226	260	230	239	261	195	157	116	98	2,289	〃

第4表 專業兼業別農家數

市町村	昭和40年				昭和45年								
	總農家數	專業農家數	世帶員數		總農家數	專業農家數	世帶員數						
			計	男			計	男					
会津若松市 (若松市) (一箕村) (高野村) (神指村)	141	11	101	785	372	413	116	12	18	86	570	268	302
	350	81	142	2,120	1,005	1,115	342	61	125	156	1,870	875	995
	297	121	63	1,810	856	954	295	57	170	68	1,659	778	881
	488	192	117	2,976	1,418	1,558	482	129	212	141	2,725	1,298	1,427
喜多方市 (喜多方町) (岩月村) (松山村) (慶徳村) (豊川村) (関柴村) (熊倉村) (上三宮村)	211	29	19	1,242	560	682	172	13	25	134	924	431	493
	513	182	200	3,013	1,442	1,571	509	133	201	175	2,703	1,317	1,386
	301	83	115	1,720	833	887	281	41	142	98	1,467	707	760
	377	141	173	2,259	1,082	1,177	377	149	157	71	2,020	955	1,065
	359	133	168	2,209	1,038	1,171	357	122	140	95	2,002	943	1,059
北会津村 (荒館村)	442	190	158	2,739	1,325	1,414	437	94	251	92	2,471	1,178	1,293
	520	183	185	3,061	1,484	1,577	503	109	224	170	2,694	1,298	1,396
	321	120	143	1,913	921	992	316	85	155	76	1,693	823	870
	660	380	204	4,020	1,901	2,119	656	177	382	97	3,634	1,743	1,891

北塩原村 (北山村) (大塩村)	199 195	54 24	86 58	59 113	1,231 1,184	572 572	659 612	195 189	10 4	123 79	62 106	1,092 1,039	506 497	586 542
塩川町 (塩川町) (堂島村) (姥堂村) (駒形村)	101 540 304 550	12 157 110 127	13 230 98 219	76 153 96 204	484 3,266 1,865 3,251	221 1,563 889 1,536	263 1,703 976 1,715	86 542 304 545	7 190 56 112	16 211 169 223	63 141 79 210	391 2,914 1,633 2,861	179 1,412 775 1,384	212 1,502 858 1,477
山都町 (山都村) (千咲村2-1) (相川村)	137 110 94	8 54 17	45 51 51	84 5 26	773 602 531	372 287 272	401 315 259	131 110 96	13 43 7	39 53 55	79 14 34	671 540 487	316 270 246	355 270 241
磐梯町	585	174	154	257	3,362	1,589	1,773	582	70	216	296	2,984	1,416	1,568
高郷村 (山郷村) (新郷村) (千咲村2-2)	219 267 77	39 62 35	132 117 28	48 88 14	1,342 1,650 470	631 808 242	711 842 228	215 265 74	24 31 6	126 127 53	65 107 15	1,217 1,498 402	581 737 204	636 761 198
会津坂下町 (坂下町)	329	30	44	255	1,649	786	863	313	27	41	245	1,464	686	778

市町村	昭和40年					昭和45年								
	総農家数	専業農家数	第1種兼業農家数	世帯員数		第2種兼業農家数	専業農家数	第1種兼業農家数	第2種兼業農家数	世帯員数				
				計	男					女	計	男	女	
(旧市町村)														
(若宮村)	560	207	210	143	3,336	1,589	1,747	561	115	243	203	3,074	1,493	1,581
(金上村)	403	146	169	88	2,501	1,209	1,292	398	147	174	77	2,207	1,076	1,131
(広瀬村)	535	171	228	136	3,202	1,532	1,670	533	125	226	182	2,884	1,343	1,541
(川西村)	330	79	178	73	1,862	897	965	318	39	169	110	1,643	807	836
(八幡村)	343	99	83	161	1,894	922	972	328	87	103	138	1,671	798	873
(高寺村)	256	90	103	63	1,591	774	817	246	66	113	67	1,404	680	724
湯川村														
(笈川村)	357	102	182	73	2,182	1,002	1,180	348	101	172	75	1,926	902	1,024
(勝常村)	335	124	150	61	1,996	969	1,027	332	105	160	67	1,799	860	939
柳津町														
(西山村)	430	24	212	194	2,616	1,287	1,329	410	15	221	174	2,187	1,087	1,100
(柳津町)	617	160	230	227	3,675	1,757	1,918	576	96	254	226	3,085	1,467	1,618
河東村														
(日橋村)	618	181	249	188	3,822	1,825	1,997	608	148	240	220	3,435	1,673	1,762
(堂島村)	491	203	157	131	3,020	1,442	1,578	495	136	206	153	2,716	1,309	1,407
新鶴村	793	294	311	188	4,859	2,319	2,540	780	173	408	199	4,308	2,060	2,248

農林業センサス統計資料

それぞれ増加，特に山都町千咲は5戸に対し9戸（64.3%）の増加。また、旧喜多方町は163戸に対し29戸（17.8%）の減少となっている。次に世帯員数をみると、各旧市町村とも減少し、特に若松市が785人に対し215人（27.3%）の減少となっている。

更に、男女別世帯員数では、高郷村千咲を除いては各旧市町村とも女子が若干の増加をしめしている。また、年齢別世帯員数（昭和45年農林業センサス）を各旧市町村別にみると、男女ともに0～14才までがもっとも高く、約22%～31%をしめし、次いで40～49才及び60才以上が約12.5%～16.4%，30～39才が約12～13.6%，50～59才が約9.9～11.6%，20～29才が約8.4～12.2%，16～19才が約7.2～12.2%，15才が約2.2～3.3%の割合になっており、依然として農業労働力の老化及び婦女子化の傾向がみうけられる。

次に、経営耕地面積（第5表）についてのべると北会津村荒館の1,202ha、塩川町堂島の892ha等がもっとも大きい方であり、耕地総面積のうち田は各旧市町村とも70～80%及び畑は約8～30%の範囲であり、樹園地については、喜多方市上三宮、塩川町駒形、会津坂下町八幡等に若干みられる程度である。また、一戸当たりの耕地面積は山都町千咲が235aでもっとも大きく、他の旧市町村では約100～180a程度であり、この地域はいわゆる米の主産地となっている。

第5表 経営耕地面積

単位：ha

市町村 (旧市町村)	経営耕地面積				1戸当 面積 (a)	田率 (%)	樹園率 (%)	畑率 (%)
	計	田	樹園地	畑				
会津若松市								
（若松市）	71	63	1	7	50	89	1	10
（一箕村）	393	305	4	84	112	78	1	21
（高野村）	543	500	2	42	182	92	-	8
（神指村）	678	462	12	205	139	68	1	30

市 町 村 (旧市町村)	經營耕地面積				1戸当 面積 (a)	田率 (%)	樹園率 (%)	畑率 (%)
	計	田	樹園地	畑				
喜 多 方 市								
(喜多方町)	102	81	2	19	48	79	1	19
(岩月村)	659	503	29	127	128	76	4	19
(松山村)	366	241	18	108	122	66	4	30
(慶徳村)	593	455	17	122	157	77	3	21
(豊川村)	575	521	3	51	160	91	-	8
(関柴村)	656	552	10	95	148	84	1	14
(熊倉村)	598	434	10	154	115	73	1	25
(上三宮村)	445	327	33	85	139	73	7	19
北 会 津 村 (荒館村)	1,202	903	5	295	182	75	-	25
北 塩 原 村								
(北山村)	227	167	8	52	114	74	4	23
(大塩村)	153	88	5	59	78	58	3	39
塩 川 町								
(塩川町)	52	48	-	5	51	92	-	9
(堂島村)	892	795	2	96	165	89	-	11
(姥堂村)	495	462	1	32	163	93	-	6
(駒形村)	774	543	30	201	141	70	3	26
山 都 町								
(山都町)	101	71	5	25	74	70	4	28
(千咲村2-1)	259	236	1	22	235	91	0	8
(相川村)	84	48	6	30	89	57	7	36
磐 梯 町	718	492	15	211	123	69	2	29

市 町 村 (旧市町村)	経 営 耕 地 面 積				1戸当 面 積 (a)	田 率 (%)	樹 園 率 (%)	畑 率 (%)
	計	田	樹園地	畑				
高 郷 村								
(山郷村)	269	161	26	82	123	59	9	30
(新郷村)	360	257	9	94	135	71	2	26
(千咲村2-2)	131	62	1	68	170	47	-	52
会津坂下町								
(坂下町)	142	132	1	10	43	93	-	7
(若宮村)	826	665	26	135	148	81	3	16
(金上村)	668	597	1	71	166	89	-	10
(広瀬村)	817	721	9	87	153	88	1	11
(川西村)	430	327	7	96	130	76	2	22
(八幡村)	355	228	30	97	103	64	8	3
(高寺村)	361	261	11	89	141	72	3	25
湯 川 村								
(笈川村)	610	559	1	49	171	92	-	8
(勝常村)	595	518	5	72	178	87	-	12
柳 津 町								
(西山村)	325	135	21	169	75	42	6	52
(柳津町)	602	338	14	250	98	56	2	42
河 東 村								
(日橋村)	806	672	4	130	130	83	-	16
(堂島村)	725	655	3	67	148	90	-	9
新 鶴 村	1,230	989	15	225	158	80	1	18

農林業センサス統計資料

次に作物別収穫面積（昭和45年農林業センサス）についてのべると、水稻（500ha以上）では、塩川町堂島が収穫農家数542戸に対し収穫面積が779haでもっとも大きく、ついで会津坂下町広瀬が533戸で713ha、その他喜多方市豊川、関柴、北会津村川南、湯川村笈川、勝常、河東村、日橋、堂島等があげられる。野菜類では、にんじんが会津若松市神指、すいか、大豆が北会津村荒井等で栽培されており、比較的収穫面積の大きい方である。

また、特用林産物として、しいたけが喜多方市岩月、柳津等において生産されている。果樹栽培農家数と面積（昭和45年農林業センサス）については、かきを会津坂下町若宮が109戸で11ha、くりが喜多方市岩月、りんごが塩川町駒形、ぶどうが会津坂下町若宮、ももが会津若松市神指等でそれぞれ栽培されている。

乳用牛については、塩川町駒形、堂島、肉用牛が喜多方市岩月、豚が塩川町堂島、会津若松市高野等で飼育されている。養蚕は高郷村山郷等が比較的掃立卵量が多い方である。

## (2) 商 業

昭和49年商業統計（第6表）によると、商店数は会津若松市が2,841店、喜多方市1,068店、会津坂下町537店、その他の町村では100店前後の商店数となっている。業種別では、小売業が約60%以上をしめ、次いで飲食業、卸売業の割合になっている。

従業員数は会津若松市が13,152人、喜多方市3,182人、会津坂下町1,527人で湯川村、高郷村を除く他の町村では100～400人の範囲にとどまっている。年間販売額は会津若松市が1,335億7,876万円、喜多方市210億8,367万円、会津坂下町84億4,832万円、湯川村を除く他町村では約3億～9億円の範囲にある。したがって、市部を除いては、農業を主体とする地域である。

## (3) 工 業

昭和48年工業統計によると、会津若松市の事業所数は1,506、喜多方293、会津坂下町80で北塩原、高郷村、湯川村を除く他の町村では約10～30事業所数とな



第6表 工業・商業統計表

区 分	工業 (昭48.12.31)			商業 (昭49.5.1)					
	事業所数	従業者数 人	製 造 品 出 荷 額 千円	總 数	卸 売 業 (%)	小 売 業 (%)	飲 食 店 (%)	従 業 者 数 人	年 間 販 売 額 万円
市町村名									
会津若松市	1,506	15,637	7,686,259	2,841	386 (13.6)	1,756 (61.8)	699 (24.6)	13,152	13,357,876
喜多方市	293	5,918	2,714,626	1,068	102 (9.5)	774 (72.5)	192 (18.0)	3,182	2,108,367
北会津村	30	628	180,632	76	2 (2.6)	69 (90.8)	5 (6.6)	139	46,772
北塩原村	9	118	39,299	62	-	46 (74.2)	16 (25.8)	168	42,602
塩川町	38	992	201,412	191	6 (3.1)	166 (87.0)	19 (9.9)	446	188,717
山都町	36	384	51,648	104	3 (2.9)	97 (93.3)	4 (3.8)	219	95,427
磐梯町	13	772	755,150	82	1 (1.2)	74 (90.3)	7 (8.5)	163	71,247
高郷村	5	127	15,285	47	2 (4.3)	41 (87.2)	4 (8.5)	89	35,810
会津坂下町	80	1,553	521,565	537	54 (10.1)	406 (75.6)	77 (14.3)	1,527	844,832
湯川村	9	194	80,471	41	2 (4.9)	36 (87.8)	3 (7.3)	62	18,286
柳津町	21	182	22,831	151	2 (1.3)	132 (87.4)	17 (11.3)	317	89,952
河東村	14	824	498,303	139	-	119 (85.6)	20 (14.4)	302	77,377
新鶴村	15	296	29,283	69	2 (2.9)	61 (88.4)	6 (8.7)	144	39,055
合 計	2,069	27,625	12,796,764	5,408	562 (10.4)	3,777 (69.8)	1,069 (19.8)	19,910	17,016,320

商業統計調査・工業統計調査資料

っている。従業者数は会津若松市が15,637人、喜多方市5,918人、会津坂下町1,553人で、北塩原村、高郷村、湯川村、柳津町を除く他の町村では約200~900人の従業者数となっている。製造品出荷額は会津若松市が768億6,259万円、喜多方市271億4,626万円、磐梯町75億5,150万円、会津坂下町52億1,565万円、河東村49億8,303万円で、その他町村では約20億円以下の出荷額である。

なお、会津若松市の玉川機械金属、喜多方市昭和電工、磐梯町の日曹金属、河東村の昭和電工、会津坂下町、清峯伸銅等のかかなり規模の大きい非鉄金属及び化学工場があり、会津地域の工業発展に寄与している。

## 5 開発の現況と方向

### (1) 道路，鉄道

本図葉内の主要道路としては、いわき市平と新潟県を結ぶ国道49号線が東西に、また、会津と山形県を結ぶ国道121号線が南北に走っている。

主要地方道としては、喜多方―北塩原線、喜多方―西会津線、喜多方―会津坂下線、郡山―会津若松線、猪苗代―塩川線、猪苗代―塩川線、会津坂下―会津高田線等がある。また、一般県道としては、山都―気多宮線、上郷―舟渡線、山都―柳津線、会津坂下―山都線、会津坂下―塩川線、熊の目―浜崎線、河東―会津坂下線、北山―会津若松線、等があり交通の便もよい。

鉄道は、郡山市と新潟県を結ぶ磐越西線が図葉の真中を、また、会津若松と会津滝ノ原間を走る会津線、会津若松市と小出市を結ぶ只見線等があり、沿線市町村の経済的発展と観光客の誘致などに寄与するところ大である。

### (2) 水 資 源

本図葉内には、阿賀川、只見川、鶴沼川等の河川があり、沿岸には農業用揚水機が各所に設置され附近の田に取水している。また、会津盆地は砂、礫等の地質となっており帯水層として条件が良く、地下水利用は比較的盛んである。表層地質柱状図に示してあるように農業用水および消遣用水取得のための深井戸及び家庭用の飲雑用水や農業用の井戸も多い。また、只見川や日橋川には片

門ダム、金川、猪苗代第2、3、4発電所、日橋川発電取水堰及び提高15m以上のかんがい用ダムとして一の坊、沢入堤、水上堤等がある。

### (3) 観 光

本図葉の東側にある雄国沼は喜多方駅から車で40分のところにあり、標高約1,090m、猫魔火山の火山湖といわれ、周辺の湿原にはミズバショウ、レンゲツツジ等の高山植物が群生している。また、熊野神社の長床は重要文化財として有名である。本図葉の東北部に位す北塩原温泉は大塩川の山あいの野趣あふれる強食塩原の温泉であり、喜多方駅より大塩行きのバスで約40分のところにある。また、磐梯町の猫魔八方台は磐梯山を南北に縦走する磐梯ゴールドラインの頂上で裏磐梯や会津の全景が望まれ、標高は約1,200mである。その他、恵日寺や徳一大師廟等の史蹟名勝地がある。会津坂下町には会津戊辰戦役に白虎隊と共に会津娘子軍として参戦、女子の身で主君の危急を救わんとして戦華と散った勇烈竹子の首級が境内に葬られている。また、恵隆寺観音堂（立木千手観音）や亀ヶ森古墳等も有名である。河東村の大野原は国道49号線滝沢バイパス入口の強清水の北にあって面積380ha、むかし、会津藩が武芸練達に使用した地であり、また、白虎隊奮戦の地でもあるが、現在は、村営の果樹園とゴルフ場になっている。また、同村には治水事業に貢献したオランダ人、ファン・ドールの銅像が建立されている。新鶴村には国重文の田子薬師堂、中田観音弁天堂の史蹟がある。

(福島県農地林務部農地管理課主査 渡辺三郎)

### (4) 開発の方向

本地域は会津29市町村とともに大規模林業圏開発計画区域に入っており、林業を中心とした総合的な開発事業を計画している。この地域の主なる開発事業は次のとおりである。

#### ○喜多方市

##### (1) 地域開発の基幹林道整備

大規模林道（米沢一下郷線） 4.0km

(2) 大規模生産団地

大規模計画造林 230ha

特用樹林等 30ha

(3) 森林レクリエーションエリアの整備

川前，西山地区（喜多方市，山都町）

林間歩道，キャンプ場，釣場，駐車場，休養施設，雄国，大塩地区

（喜多方市，北塩原村，塩川町，磐梯町）

林間歩道，林間キャンプ場，休養施設，特用樹林等 20ha

○塩川町

(1) 地域開発の基幹林道の整備

大規模林道（米沢一下郷線） 3.5km

(2) 大規模生産団地

大規模計画造林 270ha

特用樹林等 30ha

緑化木生産 2ha

(3) 森林レクリエーションエリアの整備

雄国，大塩地区（北塩原村，喜多方市，塩川町，磐梯町）

林間歩道，林間キャンプ場，休養施設，管理施設

○磐梯町

(1) 地域開発の基幹林道の整備

大規模林道（米沢一下郷線） 6.0km

(2) 大規模生産団地

大規模計画造林 410ha

特用樹林等 10ha

(3) 森林レクリエーションエリアの整備

雄国，大塩地区（北塩原村，喜多方市，塩川町，磐梯町）

## 林間歩道, 思考の森

## ○会津若松市

## (1) 大規模生産団地

大規模計画造林 20ha

緑化木生産 2 ha

## ○山 都 町

## (1) 大規模生産団地

大規模計画造林 30ha

特用樹林等 10ha

## ○坂 下 町

## (1) 地域開発の基幹林道の整備

大規模林道 (飯豊, 檜枝岐線) 4.7km

中核林道 (一の木-塔寺線) 8.6km

## (2) 大規模生産団地

大規模計画造林 600ha

特用樹林等 300ha

緑化木生産 38 ha

## ○新 鶴 村

## (1) 地域開発の基幹林道の整備

大規模林道 (飯豊-檜枝岐線) 2.0km

## (2) 大規模生産団地

大規模計画造林 100ha

緑化木生産団地 2ha

## ○柳 津 町

## (1) 大規模生産団地

大規模計画造林 50ha

(福島県農地林務部農林計画課主任主査 長崎茂)

# 各 論

## I 地形分類図

本図葉は、会津盆地の北半部を中心として東に奥羽脊梁山地の一部、西に只見川流域の台地、丘陵地の一部をそれぞれ収めている。

地形区は3つの地形地域と19の地形区に分かれる。

### A 東部山地

要害山地 Iaは図葉北東端にあって、中新統の流紋岩質角礫凝灰岩（以下地質学的表記は主として鈴木ら1973による）、鮮新～更新統の要害山石英安山岩質凝灰岩などからなる小起伏山地である。姥堂川（図葉外上流に関柴ダムがある）・渋川の流域ではやや開けた丘陵状を呈するが、大塩川沿いには大塩川の下方侵蝕が激しいため神楽岩などを含む急斜面が連なる。

雄国火山地 Ibは、図葉外の猫魔火山の一面をなす雄国カルデラの外輪山を含み、溶岩流・スコリア流堆積物の分布域が大起伏火山地、主として火山碎屑流堆積物からなる部分が小起伏火山地となっている。山腹を刻む放射谷は中腹以高で谷密度が高いが、斜面下方に至って合流するものが多く、水系は収斂する。このような開析谷系の特徴についてはTanabe (1965)、Furuya (1960) が詳しく論じている。

雄国火山麓地 IIaは、火山性泥流（火山碎屑流）堆積地で、泥流の流下コースは地形的にみて次の4つが考えられる。北から順に、金沢峠から西に下って雄国・蘆平地区に堆積したもの、天狗岩の西斜面から刈摩・紙子地区に流下したもの、二子山一扇ヶ峰の間の谷から大原・唐沢に至るもの、さらに二子山南斜面を下って磐梯町中野方面にひろがったもの等である。

吹屋山地 Icは、中新統および鮮新統の凝灰岩類からなる山地で、東半部大窪山・烏帽子山ブロックと西半部吹屋山・羽山ブロックとに分かれる。標高が100mほど大きい前者は標高514mの猪苗代湖面を侵蝕基準面とする谷によって刻まれるので小起伏地となり、標高の小さな後者が、会津盆地流域の谷に刻まれる結果中起伏山地となっている。また、流紋岩類の山頂には小規模ながら平

坦面が認められるので、これを上位岩石台地RtIとした。

大野原丘陵地Ⅱbは、かつて猪苗代湖からの排水を一時堰き止めて湖面高度を高める働きをした翁島泥流丘陵の西への延長部である。泥流地形の特徴として流れ山や泥流窪地がいたるところに散在する特異な丘陵地である（水野1958）。泥流の原地形はその後、一部侵蝕され、扇状地堆積物が流れ山の間を埋めている。

日橋川台地Ⅲbは、翁島泥流丘陵を日橋川・大谷川が開析する過程で形成された扇状地FtIがひろがる地域である。FtIはひと続きの扇状地面ではなく、泥流丘陵を刻み、かつ埋める過程を反映して、起伏に富む多彩な河成面である。

大塩川台地Ⅲaは大塩川中流部にあつて、主として大塩川の左岸にGtI以下5段の河成段丘をもつ。一般に狭小、かつ断片的であるが、段丘面の分布状態から次のような地殻運動の様式が推定される。すなわち、GtI形成時、大塩川は基盤岩を削って巾1kmほどの河床をひろげたが、 $Gt II^+ \cdot Gt II \cdot Gt III^+$ と、新しい（下位の）段丘面ほどそのひろがり狭くなる傾向が認められることから、側方侵蝕に比べて下方侵蝕の強さが次第に増して来たこと、つまり、脊梁山地の隆起が加速されたらしいことが判るのである。

## B 中央低地

濁川扇状地Ⅳa・田付川扇状地Ⅳb・大塩川扇状地Ⅳcはいずれも図葉外の山地から流下する濁川・田付川・大塩川が盆地床に到達したところに展開する扇状地であるが、前2者はそれぞれの扇端部のみが現われているのであるが、Ⅳcは関屋付近を扇頂として図葉内に扇形をひろげている。Ⅳb東部を流れる三の森川の橋向橋付近の露頭において、厚さ約2mの扇状地礫層の下位に、黒褐色の泥炭質粘土層が観察された。また、Ⅳaの西縁慶徳付近では、FtⅢ面より1.5~2m高くGtⅢが発達するが、その露頭でも厚さ1mほどの砂礫層の下位に泥炭層を挟むシルト~粘土層の存在が確かめられた。

金山川扇状地Ⅳdは、大野原丘陵地Ⅱbから供給された砂礫層からなると思われるが、詳細は不明である。翁島泥流の分布状態との関連からこの付近の地形



形成過程が若生（1974）によって再検討されている。

塔寺山麓複合扇状地Ⅳeは会津盆地西縁に連なるものの一部である。宇内から塔寺まで帯状に連なるFtⅠ群は河川の側方侵蝕を受けて段丘化しており、見明ではFtⅢ面との比高は4～5mとなる。国鉄会津線と西側丘陵に挟まれるようにもう一つのFtⅠがかなり大規模に発達する。その南北端はFtⅢ面に漸移するが、東端は側方侵蝕を受けて金沢付近で4～5mの比高をもつ。扇状地面は数本の谷の頭部侵蝕を受けつつある。船杉以南のFtⅡは丘陵に端を発する勾配の大きい沖積錐状の扇状地が複合しながら連なるものであり、塔寺以北では、FtⅠを切って発達し勾配は小さい。

大川低地Ⅴは主としてFtⅢからなるが、湯川・<sup>せせなぎ</sup>関川がさらにこれをわずかに刻んで下位に谷底平野Vpをひろげている。大川下流左岸では鶴沼川・大川の側方侵蝕のあとをものがたる比高2～3mの崖が東川原～青津付近に認められる。なお、新宮川の人工流路のほか、大川・日橋川合流点および日橋川・大塩川合流点での大がかりな河川改修の結果、河道の位置が変わるなど、盆地床の微地形の人工的な改変がなされている。

### C 西部山地

むじなもり

猪森山地Ⅰdは一ノ戸川・原川などの谷によって分離されているが、全体として小起伏の丘陵性山地である。山頂・山腹斜面のところどころに標高300m前後の平坦面（中位岩石台地RtⅡ）が分布している。

雷神山地Ⅰeも同様な丘陵性小起伏山地が大部分を占める。塔寺以南の丘陵Ⅰ(HI)には一群の平行な河谷が櫛状のパターンをもって食い込んでいる。しかしながら丘陵頂は著しい定高性を示しており、小起伏山地内部には猪森山地におけると同様なRtⅡが認められる。丘陵地Ⅱ(Hs)は高度230m前後で、勝大から南に段丘状を呈して発達する。根岸の北では陸上堆積の軽石混りロームが見られるが、只見川流域の軽石との対比は今後検討したい。

馬立山地Ⅰfは関葉南西端にある中起伏山地であるが、Ⅰeとの境は明瞭でない。地形的特徴はⅠd・Ⅰe・Ⅰg等とほぼ同じである。

塩峯山地 Igは西部地域では最も古い中新統の砂岩・礫岩の互層からなるが、地形的にはこの地域内の他の山地・丘陵地とほとんど異なるところはない。西羽賀～天屋間の道路沿いには、分水界を境にして南北に地回り地形がある（巾 0.5～1 km, 長さ 3 km）。杉山・天屋付近では現在も滑動を続けており、その原因の一つにはこの地域に卓越する凝灰岩の深層風化による粘質化があるものと思われる。杉山の北の開田現場でも凝灰角礫混り凝灰質粘土が見られる。西羽賀側にも同様の岩相が見られることから、ここも古い地回り地であろうと推定される。

一ノ戸川台地 IIIcには Gt I・Gt II・Gt III<sup>+</sup>・Gt IIIが発達するが、それらはいずれも一ノ戸川右岸に分布する。一ノ戸川が段丘を刻みながら流路を東にずらせて行ったことがわかるが、これは西側の堂森山ブロックの背斜構造をつくり出した運動の継続をものがたるものであろう。

只見川・阿賀川台地 III dには Gt I 以上 5 段の河成段丘が発達する。段丘地形の発達地域としては本図葉中随一である。Gt I は砂礫層をのせるが、千咲原～長井間の露頭ではその薄い砂礫層の下に偽層の発達した砂層や珪化木を含む砂岩などがあって、第三紀層との識別が困難である。Gt II<sup>+</sup>・Gt II はともに水成（2次）堆積の厚い軽石層をのせる。これらは沼沢カルデラ起源の軽石が只見川によって運ばれて来たものであり、只見川中下流部からさらに阿賀川沿いに野沢盆地にまで分布する（Fujiwara and Takahashi 1960）。片門付近、千咲原、袋原などで標式的に観察される。阿賀川流域では長井付近まで追跡される。阿賀川・只見川両流域には崖端切取りの結果生じた小規模な地回りが二、三見られる。

## 参 考 文 献

- Fujiwara, K. and Takahashi, T. (1960) : River terraces in the Tadami Valley 東北大学理科報告 (地理学) 9号 51～66頁
- Furuya, T. (1965) : The topography of the bases of the Bantai and

- Nekoma Volcanoes 東北大学理科報告 (地理学) 14号 87~100頁
- 水野 裕 (1958) : 翁島泥流地域の地形 東北地理 11巻1号 22~24頁
- 鈴木敬治・吉田義・真鍋健一・馬場干児 (1973) : 喜多方地域の地質 福島県  
Tanabe, K. (1960) : Geomorphography of the northern half of Inawashi-  
ro Basin with relation to the changes of lake level 東北大学理科報告  
(地理学) 9号 67~80頁
- 田辺健一 (1974) : 5万分の1地形分類「若松」 福島県
- 安田初雄 (1965) : 福島県地理総説 1. 自然的特性 福島県史25巻 582 ~  
627頁 福島県
- 安田初雄・大沢貞一郎・渡辺四郎 (1971) : 福島県総説 III. 自然 「日本地  
誌4」 364~376頁 二宮書店
- 安田初雄・大沢貞一郎・渡辺四郎 (1972) : 20万分の1地形分類「福島県」  
福島県
- 若生達夫 (1974) : いわゆる翁島泥流地域に関する地形学的な若干の知見 (演  
旨) 東北地理 26巻 121~122頁
- 〈注〉 地形分類図の作成および説明書の執筆は、図葉内のほぼ大川の左岸  
地域についてを田崎が担当し、その他の地域についておよび全体の調  
査を中村が担当した。なお、傾斜分布図、水系図・谷密度図およびそ  
の説明書はいずれも中村が担当した。

( 福島大学教育学部助教授 中村嘉男 )  
( 福島県西会津町立奥川小学校教諭 田崎敬修 )

## Ⅱ 表層地質図

本図葉の大部分は会津盆地の中央部にあたり、未固結堆積物からなる。東部は奥羽背梁山脈に属し、固結堆積物・火山性堆積物および火山岩からなる。さらに、これをおおって猫魔火山の火山性堆積物も発達する。西部は越後山地にぞくし、固結～半固結堆積物からなり、阿賀川・只見川の水系には未固結堆積物がかなり広範囲に分布する。これらの表層地質は、第1表に示したように、大区分で4、細分すると26となる。

第1表

大区分	小 区 分	堆 積 物 ・ 地 層 名	地質時代	
未固結堆積物	砂・礫 (sg) 泥・砂 (ms) 礫・砂・泥〈1〉 (gsm(1)) 礫・砂・泥〈2〉 (gsm(2)) 礫・砂・泥〈3〉 (gsm(3)) 礫・砂・泥〈4〉 (gsm(4)) 礫・砂・泥〈5〉 (gsm(5)) 礫・砂 (gs)	現河床堆積物 沼湿地堆積物 はんらん原堆積物 段丘・扇状地堆積物 下位 } 中位 } 段丘・扇状地堆積物 上位 } 館礫層	完 新 世	第 四 紀
	半固結 固結堆積物	塔寺層 七折坂層 (上部) 七折坂層 (下部)		
火山性堆積物	礫岩・砂岩・泥岩 (altgsm) 凝灰岩・礫・砂・泥 (tfgsm) 礫 (g)	和泉層 藤峠層 二ノ沢層・舟石層	鮮 新 世	第 三 紀
	軽石質砂 (Ps) 軽 石 (Pf) 火山碎屑物 I (スコリア流堆積物) (Py (I)) 安山岩質岩石〈集塊岩・熔岩〉 (Ag) 火山碎屑物 II 〈石質火山碎屑流堆積物〉 (Py(II)) 石英安山岩質凝灰岩 (Dt)	沼沢浮石層 二子山降下浮石層 雄国滝スコリア流堆積物 天狗岩熔岩・金沢峠熔岩類 大原火山碎屑流堆積物 金川山石質火山碎屑流堆積物 背中灸山層	完 新 世	第 四 紀
積物	流紋岩質凝灰岩 (Tr) 石英安山岩質熔結凝灰岩 (Wt) 凝灰角礫岩・集塊岩 (Tb) 緑色凝灰岩 (Gtr)	要害山石英安山岩質凝灰岩・仏沢凝灰岩 三森山凝灰角礫岩 面川層・田中層	中 新 世	新 第 三 紀
	火山岩	貫入岩・熔岩流 貫入岩		

## 1 未固結堆積物

会津盆地と東西両側の山地の山ろく部、および日橋川・阿賀川・只見川ぞいに分布し、完新統～更新統にぞくする。本図葉内の盆地面の高度は250～170 mであるが、穿井の資料から、盆地を埋積する完新～上・中部更新層の基底面の深度を推定し、等高線で図示した。基底面の最深部は、塩川町の日橋川と大川の合流点付近に位置し、0 m以下の高度と推定される。

gsm(1)のはんらん原堆積物は盆地内の各河川ぞいの地域に分布し、gsm(2)の扇状地あるいは段丘堆積物は盆地のへりから中央部にかけて、かなり広く分布する。これらはまた、山地の河谷ぞいにもいくらか分布する。msの沼湿地堆積物は、本図葉の東南部の強清水付近と猫魔火山の雄国沼付近のカルデラ内に分布する。gsm(3)・gsm(4)・gsm(5)の更新世の段丘、扇状地堆積物は、盆地と山地の境界付近や山地を流れる阿賀川・只見川および大塩川ぞいに分布する。また、盆地の北東縁には、館礫層が分布する。これは、よく風化されており、最も古い扇状地性の未固結堆積物と考えられるが、地形的特徴は明瞭には残されていない。

## 2 半固結堆積物

盆地西側の丘陵性の山地をしめて分布するが、盆地内の完新～上・中部更新層の下位にも不整合に分布する。altgsmt (塔寺層)・tfgsm (七折坂層上部) およびg (七折坂層下部) に区分される。この堆積物の基底面は、盆地内では最も深いところで、海水面下350mに位置すると推定される。

## 3 固結堆積物

盆地西側の山地域に広く分布するほか、東側の山地にも一部分布する。altgsm (和泉層)・altcsm (藤峠層) および altmst (二ノ沢層と舟石層) が、これにぞくする。これらも盆地下では、先にのべた半固結堆積物の下位に分布している。

## 4 火山性堆積物

(1) 只見川・阿賀川筋に、完新世中期の段丘とこれよりも古い段丘をおおって、

未固結のPs (沼沢浮石層) が分布する。(2)猫魔火山に分布する火山性の堆積物がある。これらは、安山岩質のPy(II) (火砕流堆積物), Ag (集塊岩・熔岩), Py(I) (スコリア流堆積物) およびPf (降下浮石層) からなる。後2者は固結度は低い。これらのうち、Py(II) (火砕流堆積物) の一部は、盆地地下にもぐり、盆地の未固結堆積物と指交していると推定される。

- (2) 盆地東側の猫魔火山以南の山地にはDt (背中炙山層) が分布する。大半は半固結の凝灰岩からなるが、強清水の南には固結度の高い (一部熔結) ものもある。この堆積物 (Dt) は、盆地地下にもぐりこみ、盆地下の未固結の完新～上・中部更新層の基盤岩層としても分布する。(4)本図葉の北東縁部にはTr (大沢層)・Wt (要害山石英安山岩質凝灰石)・Tb (三森山凝灰角礫岩) が分布する。さらに、本図葉の西南部の山地にもWt (仏沢凝灰岩) が分布している。(5)盆地の東側山地に緑色凝灰岩・緑色砂質凝灰岩からなるGtr (面川層・田中層) が分布する。

## 5 火山岩

盆地東側の山地にのみ、小規模なものが数ヶ所に分布する。流紋岩は、Gtr中に熔岩流として挟在されたり、Gtrやaltmstを貫入しているものがみられる。本図葉の東南部でGtrを貫入する安山岩がみられる。

## 6 地質構造

盆地の西側の山地を占めるaltgsmt (塔寺層)・alttfgsmとg (七折坂層)・altgsm (和泉層)・altcsmt (藤峠層) は、その北部でNNE-SSW方向の断層・褶曲構造を形成しているが、南部では盆地側にむかってゆるく傾斜する半盆地状構造をつくって、盆地内に発達するgsmの下にもぐりこむような姿勢を示している。阿賀川以北の盆地縁では、盆地側に向かって急斜する撓曲構造をつくり、盆地内のgsmの下にもぐりこんでいる。北方の新町～見頃付近では、撓曲している地層が逆転構造を示し、盆地側にある地層に対してのしあげている構造をつくっていると推定される。

盆地の東側の山地では、火山地形をつくって発達する猫魔火山の火山性の堆

積物により、かなりの範囲がおおわれ、全般的な地質構造の把握は困難であるが、大局的には波曲しながらも盆地側にむかって傾く構造を示している。南部ではドーム状の構造を示し、一部に撓曲構造がみられる。

盆地は、半固結堆積物のaltgsmt(塔寺層)tfgsm, gおよびDtのつくる盆地構造によって規定されており、山地との境界部にはところによって断層が、ところによって撓曲がみられ、また傾動的構造がみられるなど複雑である。これらの構造のくみあわせによって現在の盆地のりんかくの基本が形づくられているのである。その後、盆地内に多量の未固結堆積物の積成がすすんだが、その後半には盆地の積成の範囲がいくらか拡大している様子がみられる。

## 応用地質

### 1 地下水

盆地内にある完新～上・中部更新層は帯水層として好条件をそなえているので、地下水利用は比較的盛んである。とくに、柱状図に示したように農業用水および消雪用水取得のための深井戸が多くみられるほか、工業用水取得の深井戸もいくらかある。このほか、家庭用の飲雑用や農業用の浅井戸も多い。なお、帯水層としては、盆地を埋積する沖積～上・中部更新層はもちろんこの下位にあるaltgsmt(塔寺層)、tfgsm, g(七折坂層)なども重要である。現に、坂下町および新鶴村地内にある深井戸の多くは、altgsmtから取水している状況にある。

### 2 温泉

本図葉の北東部に大塩温泉がある。新第三紀の火成活動と地質構造に関連したものである。源湯は数ヶ所あり、源泉温度33～40℃、湧出量20～154.8 ℓ/min、PH6.2～7.2の食塩泉である。

### 3 鉱床

盆地の東側の山地の会津若松市一箕町石ヶ森で、かつて石膏鉱床が開発されたが、現在は廃鉱である。主にGtr(緑色凝灰岩)中に胚胎する黒鉱鉱床型の鉱床で塊状鉱体である。

盆地の西側の山地に発達する tfgsm, g (七折坂層)・altgsm (和泉層) および altcsmt (藤峠層) 中には、連続性にとぼしい亜炭を各所に賦存する。山都町堂峰山・坂下町和泉付近、その他で採掘されたが、現在はすべて廃山である。

大川の河床の sg および盆地内の sgm(1) で砂利採取が行なわれているところもある。このほか、坂下町塔寺付近では altgsm(塔寺層) や tfgsm (七折坂層上部) の礫層中の砂利が採取されている。なお、g (七折坂層下部) の礫層も注目される。

#### 4 地すべりおよび崩壊地

盆地の西側の山地には、地すべりや崩壊を生じた所は少なくない。これは、altcsmt (藤峠層)・altgsm(和泉層)・g と tfgsm (七折坂層) および altgsm(塔寺層) などの地層の性状と構造に原因している。最近において、活動が活発であった杉山、上林北西および川前付近が地すべり防止区域に指定されているが、これらのほかにも、地すべりや崩壊を生じやすい所が多くみうけられる。これらのところでは砂防ダムが各所に建設されているほか、溪流工、山腹工、植栽などの治山工事が施行されている。

とくに、多量の土、砂、礫を流し出しやすい河谷は、砂防指定地とされている。この砂防指定地は、盆地の西側の山地はもちろん、東側の山地にもある。

#### 5 ダム

本図葉西部の只見川流域に大規模の発電用片門ダム (有効貯水量 4,769,000 m<sup>3</sup>, 堤高 29 m) がある。また、日橋川流域には金川、日橋川、猪苗代第 2, 3, 4 発電取水堰が、その他、農業かんがい用ダムとして一ノ坊、沢入堤、水上堤等が建設されている。

福島大学教育学部教授 鈴木敬治

福島県立安達高等学校教諭 吉田 義

福島大学教育学部助手 真鍋健一



### Ⅲ 土 壤 図

#### 台地・低地地域の土壌

##### 〈黒ボク土〉

黒ボク土壌 — 萩平統：表層多腐植又は表層腐植層の粘質土（一部壤質土）で主として東部の雄国山麓に分布するが、西部の台地や盆地の南部にも少面積分布する。

粗粒黒ボク土壌 — 大登統：第1層は砂質又は壤質土であり、第2層以下は火山浮石を含む砂質の土壌である。畑及び林地であるが畑の場合、生産力は低い。

多湿黒ボク土壌 — 若林統：表層腐植層又は多腐植層の火山灰土で、土性は粘質又は強粘質である。60cm以内から礫層の出現もある。酸化沈積物を含む水田土壌で生産力は中庸～やや低い。東部の山麓地に広く分布するが、西部の段丘地にもある。

粗粒多湿黒ボク土壌 — 東松統：土性は表土主として壤質であるが、20～30cm以下は砂質であり、腐植富む層の厚さは25～30cmである。

千咲統：腐植富む層の厚さが15cm前後で東松統より薄い。黄褐色粘土を客土したところもある。両統とも水田で、只見川・阿賀川沿岸段丘地に分布する。生産力は一般に低い。

黒ボクグライ土壌 — 松尾統：グライ層のある火山灰土壌で土性は主として粘質土である。西部と東部の山間低地に分布するが面積は少ない。

淡色黒ボク土壌 — 駒谷統：腐植層の厚さは20～30cm、土性は粘質が主

であるが一部壤質もある。60cm以内から礫層になる  
ところも多い。生産力の中～やや高い。

台地や麓屑地に分布する。

褐色森林土壌 — 火成岩及び堆積岩の崩積土で、土性は主として粘質土、一部壤質土、強粘質土もある。盆地西縁の山麓地に分布する。

#### 〈黄色土〉

黄色土壌 — 柳原統：全層又は下層黄褐色の水田土壌である。  
土性は強粘質を主とするが粘質もある。作土及び作土下に酸化沈積物含む～富むであり、下層土にはマンガン点状斑もある。台地に分布するが、一部低地にもある。生産力の中である。

#### 〈褐色低地土〉

褐色低地土壌 — 新庄統：低地および扇状地に分布する沖積畑地土壌で腐植層なく土性主として粘質で生産力はやや高い。  
蟹川統：土性壤質であり、60cm以内より礫層のところもある。生産力の中～やや高い。

粗粒褐色低地土壌 — 真宮統：作土は壤質もあるが作土下より砂質又は砂礫層で畑地としての生産力は低い。

#### 〈灰色低地土〉

細粒灰色低地土壌 — 盆地内の低地・扇状地に分布する水田土壌で高堂太統、今和泉統、永井野統、中田付統がある。生産力の中～高い。

高堂太統：土性強粘質で作土下の土色は主として灰褐色であるが灰色もある。酸化沈積含む～富むで一部マンガン斑もある分布面積最も広い。

今和泉統：土性粘質で作土下の土色は主として灰褐

色，酸化沈積物含む～富む。

永井野統：今和泉統と異なる点は作土下の土色が灰色であり，マンガン斑がやや多いことである。

中田付統：土性は粘質であるが，60cm以内より礫層がある。

灰色低地土壤 — 門田統：細粒質の土壤と同じく盆地内の低地，扇状地に分布するが，土性壤質であり，60cm以内より砂礫層のところも多い。生産力は中庸である。

粗粒灰色低地土壤 — 関本統：作土及び鋤床層は主として壤質であるが，30cm以内より礫層，砂礫層で有効土層が浅く，生産力は一般にやや低い。

#### 〈グライ土〉

細粒グライ土 — 島統：土性粘質もあるが，主として強粘質で，30～50cm以内よりグライ層がある。盆地内の低地に点在するが分布面積は少い。生産力の中である。

#### 〈低位泥炭土〉

低位泥炭土壤 — 三津合統：作土下又は30cm以内より泥炭層になる土壤で分布は極めて少い。生産力は低い。

#### 〈黒泥土〉

黒泥土土壤 — 荒久田統：土性強粘質で30～60cm以内に黒泥層のある水田土壤で，盆地内の低地に分布する。生産力の中である。

(福島県農業試験場専門研究員 鈴木平喜)

## 山地、丘陵地地域の土壌

### (1) 黒ボク土壌

丘陵状地や山地の比較的平坦な地域に分布しており、ほとんどが火山灰を母材としている。

#### (イ) 大寺統

磐梯山麓続きの山脚平坦部、丘陵台地状地形に広く分布する。A層比較的深く、場所により褐色森林土と入りくんでみられる移行型もある。B層に半角礫を含むものが多く、一般に堅密な土壌である。

#### (ロ) 塔寺統

大寺統のように広い分布を示さず、山地の凹地に介在し、褐色森林土壌へ移行する。A層比較的深い半角礫混入するため、B層とは判然と分かれぬ向きがあり、B層は石礫混入し堅密な土壌が多い。

### (2) 乾性褐色森林土壌

丘陵地の凸部、山地の尾根筋にみられる土壌で褐色森林土のB<sub>A</sub>、B<sub>B</sub>、B<sub>C</sub>型土壌に相当する。一般に土層は浅く、腐植の混入も少く林地の生産性は低い。構造は粒状、堅果状が発達しているもの多い。

#### (イ) 磐梯Ⅰ統

火山碎屑物を母材とする残積土でA層浅く、全土層も浅い。土壌は堆積土でやや堅密であり、色調は暗褐色乃至にぶい黄褐色と推移する。

#### (ロ) 慶徳Ⅰ統

洪積台地状地形の凸面に出現し、礫岩、泥岩、凝灰岩の互層を母材とする残積土で、表層は腐植色乏しく堅密で堅果状構造発達するところが多い。従って、明瞭なA層を示すもの少く、A B乃至B層と形成され全土層も浅い。色調は、暗褐色を呈する。

### (3) 適潤性褐色森林土壌

丘陵地、山地の斜面から山脚部にみられる。褐色森林土壌のB<sub>D</sub>(d)型、

B<sub>d</sub>型に相当する土壤である。

(イ) 磐梯Ⅱ統

磐梯Ⅰ統と地域母材を同じくする山腹中・下部，丘陵下部の匍行性土壤である。腐植の入り具合もかなりⅠ統よりは多くなっている。色調と推移状態から，大寺統と接して分けられている。色調は黒褐色から暗褐色に推移する。

(ロ) 慶徳Ⅱ統

慶徳Ⅰ統と地域母材を同じくする山腹，丘陵下部の匍行～崩積性土壤である。A層，B層とも円礫乃至半角礫を含むもの多く，Ⅰ統よりは腐植の混入多いが，他の統に比しては少い堅密な土壤である。

色調は，黒褐色より褐色となる。

(4) 湿性褐色森林土壤

山地の山腹下部凹面，山脚部に見られる，褐色森林土のB<sub>E</sub>・B<sub>F</sub>型に相当する土壤である。

(イ) 磐梯Ⅲ統

磐梯Ⅰ，Ⅱ統と地域母材を同じくする土壤で，Ⅱ統の下部凹面と大寺統の下部に崩積性状態で介在する。場所により黒色土に近いものもあるが，腐植層の色調で褐色森林土に入れた。分布的には少い。色調は，黒褐色乃至暗褐色から褐色となる。

(ロ) 慶徳Ⅲ統

慶徳Ⅰ，Ⅱ統と地域，母材を同じくする土壤でⅡ統の下部凹面に介在する。場所により褐色森林土のB<sub>F</sub>型が認められ，生産力的には他の統に比して低いとみられる。

円礫半角礫を含む黒褐色より暗褐色乃至にふい黄褐色となる。

(5) 暗色系褐色森林土壤（雄国統）

雄国沼をかかえた高海拔の尾根続き面で猫魔スコリヤを母材とした寒冷地の土壤である。腐植の分解おくれ，厚いA<sub>0</sub>層（L・F・H共）を有し，A層は脂

肪質な触感の埴壤土で、暗褐色を呈しており、漸变的にB層に推移している。  
上層は軟質だが下層にかけ堅密な土壤である。

(福島県林業試験場 専門研究員 添田幹男)

## IV 傾斜区分図

水系、谷密度図と並んで、傾斜区分図（傾斜分布図）も、当該地域の地形構造・地形発達過程の一端をよく示す資料となるが、水系図と異なり、現実に存在する地表形態の直接的な表現ではなく、地形計測という特定の手段を通じた結果としての間接的表現であるため、一般に傾斜測定方法の技術的相違の影響を消去して特色を理解する手続きが必要となる。

本図葉地域についても、谷密度図作成に用いた方眼の単位区画ごとに、その部分の地表傾斜を代表すると思われる地点の勾配を、主として地形図の等高線間隔を計測することによって求めたものであるが、同一区画内に2つ以上の特徴的な地形要素が共存する場合には、その周辺地域との地形的関連を考慮して、それらのうちの1つをもって当該地区を代表する地形として計測した。1つの地形面の勾配が一様であるか、連続的に変化する場合に平均値をとることでほぼ妥当な傾斜分布を知ることができるが、全く勾配を異にする地形面同士が接する場合に上述のような困難が生じるのである。本図葉内において、山地・丘陵地と、台地・低地とが接する場合、あるいは山麓地に開析谷が入り込んでいる部分などがそれに当る。以下、地形地域ごとに略述する。

### A 東部山地

雄国火山地の大半が $20^{\circ}$ ～ $30^{\circ}$ の範囲に入り、周辺部に $15^{\circ}$ ～ $20^{\circ}$ のところがある。放射状の開析谷に沿って、局地的には急峻な谷壁斜面も見られないわけではないが、全体としては、火山体形成時期が比較的新しいことを反映して緩やかな山腹斜面がひろがる。 $30^{\circ}$ をこえる急斜面はいずれも谷沿いに帯状に分布するのみである。南部の吹屋山地にも若干の部分に $20^{\circ}$ ～ $30^{\circ}$ の傾斜をみるが多くはそれ以下である。とくにその東半部は、標高の高い猪苗代盆地流域に入り、起伏も小さいため傾斜の大きな地形はほとんど生じ難い状況にある。日橋川・大谷川・金山川流域の泥流丘陵も、単に小起伏、低谷密度であるばかりでなく、なだらかな斜面の集合で、急傾斜の部分は（図には示されないが）日橋川の谷

壁斜面の発達するところにわずかに分布するのみである。北東隅の要害山地・大塩川台地も、傾斜区分ではほとんどが $20^{\circ}$ 未満の範囲に収まる。段丘崖・谷壁斜面等の急斜面はあっても、極めて断片的かつ小規模に発達するのみで、水平的なひろがりや欠くためである。

雄国火山麓地の大半は、連続するひと続きの緩斜面で、傾斜区分図本来の表現が効果的になされている部分である。

### B 中央低地

盆地床にあたるため全域が $3^{\circ}$ 未満の平坦地である。大川・日橋川・鶴沼川・湯川等の側方侵蝕のあとを示す段丘崖がいたるところに存在するが、それをもって当該地区の平均的な勾配と認め得るほどのものは見当らなかったため区分図には示していない。

### C 西部山地

大半を占める山地・丘陵地は、決して連続する斜面をもつわけではないが、いずれの部分もほぼ $20^{\circ}$ 未満の区域である。全体としては北部の猪森山地 南部の馬立山地にやや大きな傾斜が見られるほか、 $8^{\circ}\sim 15^{\circ}$ の範囲の部分が圧倒的に広い。猪森山地・雷神山地においては、傾斜区分 $8^{\circ}\sim 15^{\circ}$ が山地・丘陵地の稜線部分、 $3^{\circ}\sim 8^{\circ}$ がその両側の支谷群に刻まれる部分に対応している。山地・丘陵地を開析する谷には、 $30^{\circ}$ にも及ぶ急斜面を伴うものが少なくないし、そのような開析谷の谷密度も20をこえるほど一般的であるが、それでも全体として本地域の傾斜がふつうの山地・丘陵地に比べて著しく小さいのは、稜線部分に侵蝕平坦面を残すところがあったり、開析度の高さに拘わらず尾根の定高性がよく保たれているからである。また、丘陵地の一部（南西端佐賀瀬川流域など）は明らかに古期の扇状地が開析されたものであって、緩傾斜の原面が広く分布するので地域全体としての傾斜も小さくなっている。

只見川・阿賀川台地沿いには、しかしながらところどころ $40^{\circ}$ をこえる急傾斜部が認められるが、これは比高の大きな段丘崖の連なる部分で、50mに達する比高の大ききゆえに急傾斜部の水平的なひろがりも大きくなって、区分図上



に示されているのである。

(福島大学教育学部助教授 中村嘉男)

## V 水系・谷密度図

### (1) 水系図

水系の特徴は一般にその地域の地質構造と地形面配置の状態に大きく支配される。本図葉にあっては、面積的に半分以上を占める会津平（会津盆地）の存在によって、水系分布の大まかな配置が決定され、さまざまなタイプの水系模様の分布は図葉両わきの東西地区に限られることになる。山地・丘陵地にあつてはとくに地質構造の影響が著しくなるが、主として火山地・火山麓地からなる東部地域と、新第三系丘陵地（小起伏山地）からなる西部地域とで水系のパターンが対照的に異なるもその例の1つである。以下、各地形地域ごとに概観する。

#### A 東部山地

大塩川・日橋川（支流大谷川）に挟まれる本山地地域北半部は、第四紀の安山岩質熔岩・火山碎屑岩類からなる雄国火山地である。この地域の水系は、火山地形特有の放射状パターンを示している。雄国火山は本来、猫魔火山群の西端を占めるものであつて、カルデラの火口原に雄国沼を抱え、ほぼ直径2kmの外輪山の稜線をもつが、本図葉内にはこの外輪山の西端部とそこから西に裾を引く山麓斜面が含まれる。このため放射状の水系も、北西～西～南西方向に向かうもののみである。しかしながら、放射状に発達する水系も、山腹斜面の中央部、標高約500m付近を境にその上下で分布様式を異にする。すなわち、上部斜面には放射状の主要開析谷に対して支谷が数多く形成されていて、いわゆる樹枝状の谷系網をもつが、下部斜面（山麓部）では支谷の発達がみられない。これは山麓部が火山碎屑流の堆積面で、起伏がもともと小さいことと、地表水の滲透が著しく、河谷の形成速度が相対的に小さいことなどが、地形面形成時期の新しいことに加えて重要な条件となっているものと思われる。

日橋川以南を占める吹屋山地は鮮新統の石英安山岩質熔岩・熔結凝灰岩・凝灰岩からなるが、南北方向に数本の断層線が通るなど、西部山地と類似した地

形がひろがっているので、水系模様も樹枝状パターンが主である。しかし、日橋川・金山川流域の水系は、泥流丘陵地特有の不規則な形態をとっている。

## B 中央低地

盆地内主要河川が図葉中央やや西寄りの部分に求心的に集まるので、水系も盆地尻に収束するような求心状のパターンを示す。北半部では田付川・大塩川各扇状地を流れるいくつかの流路が認められるが、それらは下流、つまり盆地中央部に近づくると盆地床の低地（下位扇状地面）に吸収されるように不明瞭となる。

## C 西部山地

この地域は藤峠層・和泉層・七折坂層と呼ばれる鮮新～更新統（一部中新統）の軟質の礫岩・砂岩・泥岩の互層からなっており、一部に石英安山岩質・流紋岩質凝灰岩を挟在する。全体として南北方向の褶曲構造をもつ。地形的には中～小起伏山地および丘陵地で、地質・地形ともほぼ均質な条件のもとに水系が発達している。樹枝状の谷系網が卓越するが中央部やや南寄りに、東西方向に等間隔に並ぶ櫛の目状の水系が注目される。本山地内の只見川・阿賀川台地、一ノ戸川台地には開析の進んでいない段丘面がひろがっているため目立った水系はみられない。

### (2) 谷密度図

谷密度の大小は、前述の水系発達の特色を結果的に反映するものであるが、一般には当該地域の侵蝕量の大小という量的な表現のほか、いかなる種類（形態）の谷によって刻まれているかという侵蝕様式の質的な性格をも示している場合が多いので、地形学的にも重要視されるところである。いわゆるV字谷と呼ばれる急斜面を伴う谷は、単位面積内にかなり多数発達することができるのに対して、浅く開いた凹形谷や、広い河床をもつ床谷はその分布密度におのずから限界をもつからである。その意味からすると、山地・丘陵地には、比較的起伏量大きいことが影響してV字谷の発達が良好であり、台地・扇状地には逆に凹形谷・床谷がよく発達する。本図葉内もほぼこの傾向が一般的に認め

られ、谷密度の値からも山地・丘陵地で15~20程度、台地・扇状地のところで  
ほぼ10以下という対照を読みとることができる。水系発達が侵蝕地形形成過程  
の一断面であることから、谷密度分布にもこのほか岩石の侵蝕抵抗差にもとづ  
く rock control の効果も見逃すことができないのはもちろんである。しかし、  
本図葉内に関する限り、地質条件の相違よりも、地形的な特性による水系およ  
び谷密度の多様性の方が顕著なようである。

(福島大学教育学部助教授 中村嘉男)

## VI 土壤生産力区分図

### 〈低地，台地〉

大川・鶴沼川・大塩川・姥堂川・田付川・濁川等各河川沿いの低地は，土性壤質と粘質が主体で一部砂質もある。下層に砂礫層が出現し，有効土層が中庸～やや浅いところが多い。この地帯の水田は鉄やマンガンの溶脱がみられる老朽化水田が多く，珪酸含量も少なく，生産力の中～やや低い。畑は一部砂質土を除き，生産力は概して高い。しかし，盆地内低地の大部分は粘質～強粘質の灰色土壌であり，生産力は概して高い。

低地や山間谷地には黒泥土壌やグライ土壌も少面積あり，水稻は土壌の還元による根系障害があるが，生産力の中～やや高い。

山麓や山添地の黒ボク土壌（畑）や多湿黒ボク土壌（水田）は肥沃度やや劣り生産力の中～やや低い。

西部の只見川沿岸の段丘地に分布する壤質～砂質の粗粒質の黒ボク土壌（畑），多湿黒ボク土壌（水田）は肥沃度劣り，生産力は低い。

（福島県農業試験場専門研究員 鈴木平喜）

### 〈一般山地〉

山地における土壤生産力は、土壤型が位置、地形、地質母材等に対応して変化し分けられると同様に、これと併行して変化してくる。

従って、褐色森林土でも斜面上部、峯筋等では乾性土壤で生産力低く、斜面下部等では適潤性土壤となり、良い場合が多い。こうしたパターンは山地の起伏量や谷密度との関連も強く、大起伏小谷密度の山地は高生産性の土壤が広く分布し、逆に丘陵地形のように小起伏、谷密度の大きい山地は低生産性の土壤分布が多い。

この喜多方図葉においても斜面上部峯筋には乾性褐色森林土で磐梯1統、慶徳1統及び高海拔尾根筋に同暗色系の雄国統が分布し、Ⅲ等に級位され、斜面下部山脚部には適潤性褐色森林土の磐梯2統、慶徳2統と黒色土の大寺統、塔寺統が分布し、いずれもⅡ等に級位されているが、同一級位でも標高、位置の高い所と低い所では、地位指数でなお高い所が低く差位がある。また、褐色森林土に比し黒色土は低位とされる。

磐梯3統、慶徳3統はⅠ等に級位し分布はわずかであるが、生産性は高い。

(福島県林業試験場専門研究員 添田幹男)

## Ⅶ 土地利用現況図

### 1 耕地

#### (1) 概要

本図葉の南北に会津盆地があり、耕地が約6割をしめし、4割は東側に雄国火山、猫魔火山及び西側が只見川流域の丘陵性山地となっている。したがって、土地利用現況は、それらの平地及び段丘地の分布に応じて利用されている。会津盆地は比較的平坦で、古くから灌漑用水路が発達している関係上、広い水田が図葉の中央に連続しており、この地域は水稻10a当りの収穫量約550 kg以上であり、県内最高の米作地域である。大川・濁川・只見川沿岸の畑には果樹園が散在し、主としてリンゴ・ブドウ・桃等の果物が収穫されている。また、葉タバコ、薬用人参等の特用作物やトマト、キュウリ、アスパラガス、メロン等の野菜も生産され、近郊都市へ出荷している。

一方、盆地周辺山地内には、各河川沿岸の谷底平野や段丘面上はもちろん、山地内の緩斜面にも所々に集落があり、それらの附近には水田や普通畑が散在し分布している。

#### (2) 田

本図葉内の耕地のうち、その殆んどが田であり、平坦な盆床地に広い面積をもって分布している。西北部の慶徳地区及び北部の熊倉地区南部の会津高田、喜多方地域では県営圃場整備事業が施行されている。また、東北の雄国山麓地区は、農地経営規模拡大と農地の集団化・機械化を計るため国営の土地改良事業が現在すすめられている。

なお、山地内の蓬萊、大柳、大久保、等の附近には小塊状の水田が分布している。また、新鶴村は、米を中心とした純農村であり、年間10万俵の生産を行ない、ライスセンターを設置し、良質米の生産に当たっている。

### (3) 普通畑

普通畑の分布する地域は、大塩川扇状地面、日橋川上流の段丘面、大川沿岸の平坦面、西南部の段丘面、西北部の阿賀川沿岸の附近及び山地内の緩斜面に分布している。喜多方市周辺及び会津若松市周辺は、普通畑が分布し、アスパラガス・トマト・タマネギ・キュウリ・大根等の野菜の生産地となっている。また、この地方の普通畑には、たばこ・ホップ等の作付もみられ、新鶴村の山間地帯では薬用人参の生産が進められている。

また、会津坂下町のホップ園は、近年特用物の代表として脚光を浴びており、喜多方市とともに会津みしらず柿の名産地でもある。また、北塩原村は、大根・レタス・セロリ等高原野菜の生産地である。

### (4) 桑園

桑園は会津坂下町の西南部の山麓緩斜面、袋原の地域及び磐梯町の東南部の山麓緩斜面並びに北塩原村の南北部の山麓緩斜面等に散在分布しているが、一般的に養蚕農家は少ない。

### (5) 果樹園

果樹園は塩川町の山麓地帯にリンゴ、山都町の南部の平坦地にブドウ・リンゴ、磐梯町の南部の山麓緩斜面にリンゴ、会津坂下町の袋原及び西南部の山麓緩斜面、平坦にはみしらず柿・リンゴ・ブドウ、河東村の東部の山麓緩斜面にはみしらず柿・リンゴ、喜多方市の西南部の山麓緩斜面に会津みしらず柿、会津若松市の北部の平坦地にもも・リンゴ等の果樹栽培がされており、会津みしらず柿は東京方面に多く出荷され、会津地方の名産の一つとしてあげられる。

### (6) 都市および村落

本図葉内の喜多方市は北方に位置するため、きたかたと呼ばれていたが、明治8年、県布達により5村落の合併を機に喜びの多い町ということで喜多方という地名が誕生した。市街地の大部分が北部に位し、商店街を中心として、住宅地、学校、工場等がとりまき、会津地方の歴史や文化を裏づ



けるすぐれた文化財が数多い。また、盆地の南部にかけて会津坂下町、湯川村、塩川町、河東村等があるが会津坂下町を除いては商店街も狭小である。また、会津盆地内には農業集落が密に散在し、山地内の河谷や山腹緩斜面にも村落が分布する。

なお、北部に会津若松市の一部がみられるが、大きな商店外はなく、大塚墓地公園、浄水場等がある。

## 2 林 地

本図葉の林地面積は約30%をしめしている。その分布を大別すると、民有林が約20%、後は国有林である。林野の位置は中央の盆地を境として東部と西部に位している。林相は大半が広葉樹であり、樹種はスギ、アカマツ、カラマツ、クリ、ナラ、ブナ等が主なるものである。保安林は東部の二子山周辺と喜多方市の西部の山地に散在分布し、殆んど水源涵養保安林である。公有林は河東村大野原及び会津坂下町塔寺周辺にみられる。また、この地域は大規模林業圏開発計画として大規模林道及び造林計画等、森林開発の計画がされている。

## 3 草 地

喜多方市の東部山地緩斜面、河東村の東部の山麓緩斜面、会津坂下町の東南部の山麓地と大川沿岸、新鶴村の南部の山麓緩斜面、山都町の南部、塩川町の東部の山麓緩斜面等に人工草地在り散在分布している。

なお、塩川町の東部の山麓緩斜面に自然採草地在り一部みられるが、その他の地域については面積的に不詳のため図示できない。

## 4 そ の 他

喜多方市の郊外、会津坂下町の山麓地、塩川町の北部の郊外に1級火薬庫があり、ダイナマイト、花火等を製造している。

(福島県農地林務部農地管理課主査 渡辺三郎)

昭和51年3月印刷発行

会津開発地域  
土地分類基本調査

## 喜 多 方

編集発行 福島県農地林務部農地管理課  
福島市杉妻町2-16

印 刷 陽 光 社 印 刷 株 式 会 社  
福島市上町4-24